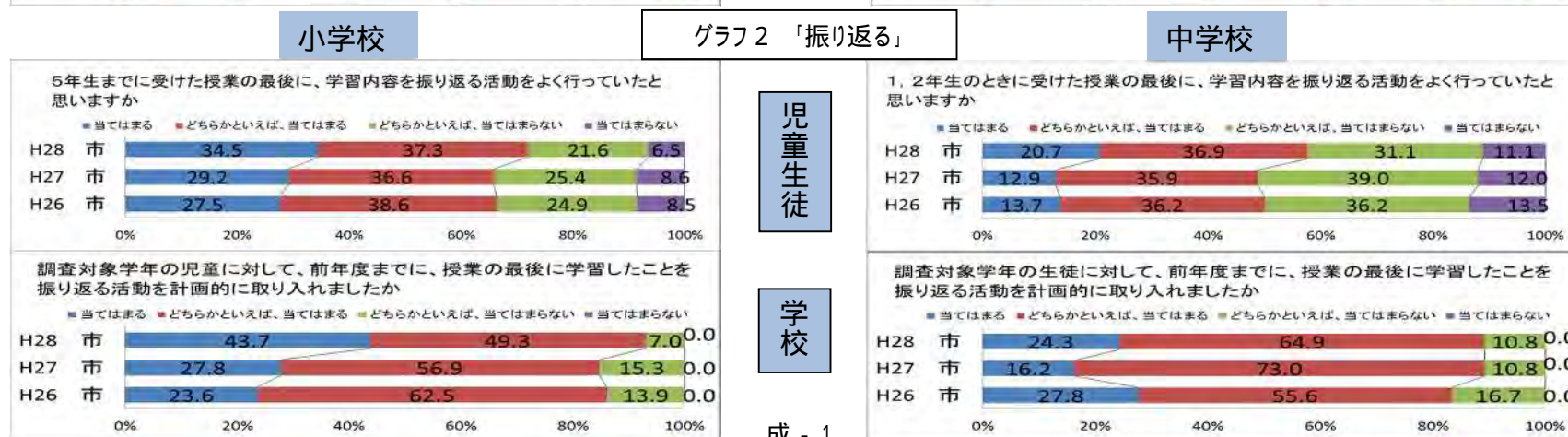
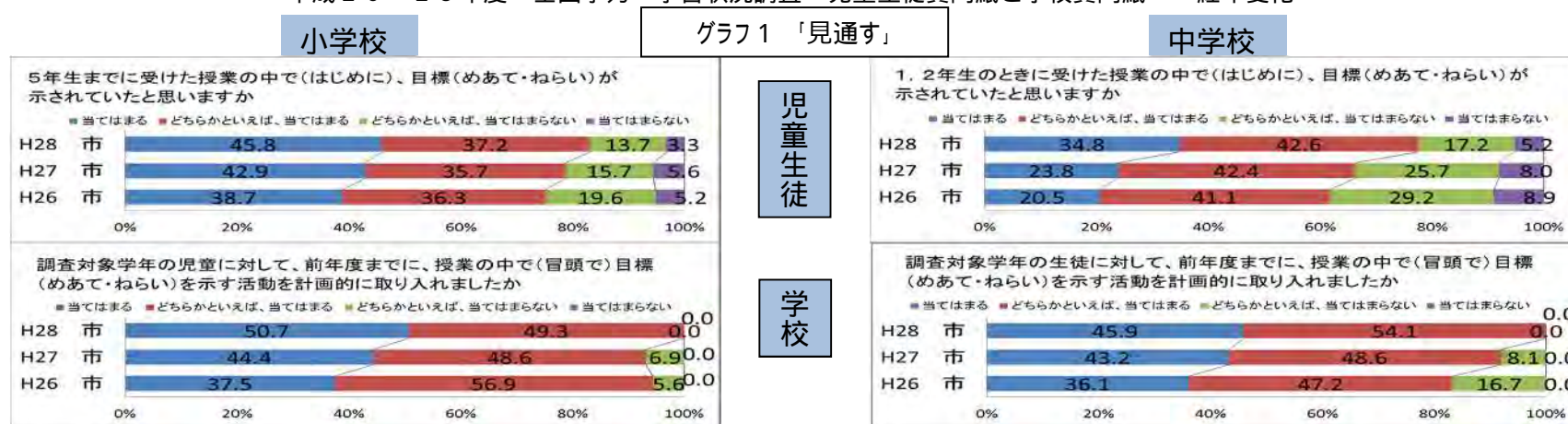


# 成果がみられる点

本市では、平成27年度から、児童生徒自身が、授業の中で「何をどのように学ぶのか」を見通し、授業の終わりにはその授業を振り返り、「何をどのように学んだのか」を実感できるよう、「見通す・振り返る」学習活動に力を入れてきました。その結果、学校の取組状況及び児童生徒の意識の向上がみられました。

グラフ1、2に見られるように、過去3年間の経年変化を見ると、今年度(H28)調査において、「見通す・振り返る」学習活動を行っている割合が、市全体では向上していることが分かります。

平成26～28年度 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙と学校質問紙 経年変化



## 教科において課題がみられる点

国語、算数・数学の解答類型（どのような誤答がみられたかまとめたもの）をみると、以下のような両教科に共通する課題がみられました。

- ・問題文や問いに出てくる言葉や用語の理解が不十分な点がみられる。
- ・文章や表、グラフ等複数の資料を読み取って関係付けたり、読み取ったことを記述したりすることが苦手な傾向にある。

### 改善に向けた具体的な取組

問題の解き方においても、

- ・2つ解答すべきところを1つ解答している。
- ・「当てはまらないもの」を選択すべきところを「当てはまるもの」を選択している。
- ・複数の条件を満たしていない。

という状況がみられました。

国語、算数・数学に関係なく、以下のことが必要です。

文章を読む力、理解する力を付ける（音読、キーワードに着目する等）。

新しい用語等の意味や使い方を確認し、学習後は繰り返し使用する（筆者、要旨、積、商等）。

根拠を明確にして考えを書く機会を増やす（資料の読み取り、関係付け、自分の言葉で表現する等）。

各学年の学習内容を繰り返し学ぶ機会をつくり、定着させる。

この後、国語、算数・数学の中から、本市において成果と課題がみられる点について、調査問題を取り上げ、改善の方向性等を示しました。ご家庭でもぜひ、話題にしていただければと思います。

## 児童生徒質問紙において課題がみられる点

自尊感情やスマートフォンなどの利用時間等について、これまでの調査に引き続き、改善すべき点がみられました。

- ・「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対して、3割程度の児童生徒が否定的回答をしている。
- ・普段(月～金曜日)に、2時間以上テレビ等の視聴をしている(小:6割弱・中:5割強)、ゲームをしている(小:3割強・中:4割強)、通話やメール、インターネット等をしている(小:1割強・中:4割弱)児童生徒がみられる。

### 改善に向けた具体的な取組

児童生徒が満足感・達成感を味わえるような体験を積み重ねることが大切です。

帰宅後の生活習慣について見直し、規則正しい生活習慣を身に付けることが必要です。

これらの点については、児童生徒質問紙のページに詳細を記載しています。児童生徒が心身ともに健康的な生活を送ることができるよう、ご協力をお願いいたします。